



宝永小だより

No.9

福井市宝永小学校

令和8年7月14日

学校教育目標：ひとり立ちできる子 ～心身共にたくましく、進んで学び合い、高め合う児童の育成～
めざす児童像：進んで学び合える子・協力し合える子・心と体を鍛える子・ふるさとを大切にする子

5年生企画「1年生と遊ぼう」 6月12日(金)

1年生が楽しく学校生活を送ってほしいと願い、5年生の子どもたちが「1年生と遊ぼう」を企画し実行しました。玉入れ対決・ピラミッドじゃんけん・王様しっぽ取りの3つの遊びに分かれて、楽しい時間を過ごしました。玉入れ対決では、それぞれの学年に合わせて玉入れの籠の高さを変え、1年生対5年生で競いました。ピラミッドじゃんけんでは、それぞれの学年で「守り」を3人ずつ出して、残りの人を「攻め」に分け、守備側の6人がピラミッド状(3人→2人→1人)に並んで陣形を作りました。じゃんけんでは勝ち進んで突破できた人数を1年生対5年生で競いました。王様しっぽ取りでは、1年生と5年生が混合で2チームに分かれ、各チームで「王様」



＜玉入れ対決の1年生＞



＜ピラミッドじゃんけん＞



＜王様しっぽ取り＞

を決めて、相手チームの王様のしっぽ(タオル)を先に取りれるよう競いました。5年生の子どもたちはお兄さん・お姉さんとしてやさしく接し、1年生の子どもたちはそのやさしさを感じる温かい時間が流れました。

4年生 浄水とごみ処理の仕組みは？ 6月12日(金)

社会科「住みよいくらしをつくる」の学習内容の理解を深めるために、「福井市クリーンセンター」と「日野川浄化センター」と「九頭竜川流域防災センター」の見学に出かけました。子どもたちは、大事なことをメモしながら施設内を見学し、熱心に説明を聴くことができていました。下水処理とごみ処理の仕組みやその工夫について、施設を直接見学し、説明を聴くことで、知識や理解がより深まりました。

その後、「水はどこから」の学習と「ごみのしよりと利用」の学習のまとめとして、校外学習の施設見学で学んだことをもとに新聞づくりに挑戦しました。記事ではそれぞれの施設の働きや処理過程などを具体的に紹介し、読み手によりわかりやすく伝えようと努めていました。



＜福井市クリーンセンター見学＞



＜日野川浄化センター見学＞

＜4年児童の感想＞ぼくは、東山クリーンセンターと日野川浄化センターと防災センターに行って、一番感心したのが、日野川浄化センターのび生物がどろを食べる、反応タンクです。理由は、小さいのにきたない水をきれいにしてくれるからです。

＜4年児童の感想＞福井市クリーンセンター、九頭竜川流域防災センター、日野川浄化センターに見学に行って、知らないところで、いろんなしせつが活躍していると思うと、すごいと思いました。

4年生 点訳に挑戦する 6月15日(月)

子どもたちは、「福井県点訳おつみ会」福井支部の ○○○○ 様に来ていただいて、点訳体験をしました。まず、子どもたちは、点字の歴史や仕組みについて学びました。点字は、6つの点の組み合わせで、かな・漢字・アルファベットやいろいろな記号なども表します。子どもたちは、点字のきまりを確認した上で、点字一覧表を見ながら、点字を読んでいきました。そして、点字器を使って、自分の名前と生年月日を点筆で書くことに挑戦しました。子どもたちは点字用紙を点字器の「枠」と「定規」の間に挟み、点筆と呼ばれるペンで紙を押し込んで点を打っていきました。右から左へ点(凹み)を打ち、紙を裏返すことで左から右へ読める(凸面になる)仕組みになっているため、子どもたちは点字器を使って点訳することの大変さを体感していました。



＜点字器を使って点訳に挑戦＞

＜4年児童の感想＞点やく体けんで、「たちつと」をおぼえるのが大変でした。点字を書くのが楽しかったです。自分の名前、生年月日をうまく書けてうれしかったです。点字が生まれた国はフランスだということを初めて知りました。「公園へ」の「へ」が点字だと、「え」になることが分かりました。

4年生 ガイドヘルプを体験する 6月16日(火)

福井市社会福祉協議会の方をお招きして、

ガイドヘルプ体験学習を行いました。子どもたちは二人ペアになり、一人がアイマスクを付けて視覚障害のある人、もう一人がその人をガイドする立場となり、体育館後方をスタートして児童玄関の方へ向かい、体育館トイレの手洗い場で水道の蛇口を回して水を出してみました。次に、体育館前廊下を通して体育館の玄関へ向かい、そこで小さなダウンとアップを体験しました。その後、体育館の東側入口から体育館へ戻り、最後に体育館ステージの階段を上って下りて、元の位置に戻るという流れで体験をしました。



ガイドの人の声や案内がどれだけ大切なのか、身をもって学ぶことができました。＜点字ブロックの上を歩く様子＞特に、階段を上り下りする際に、周りがどうガイドやヘルプをすればよいのかを考えて、実践していました。

<4年児童の感想>ガイドヘルプ体験をして、目の不自由な人をゆう導するのは大変でした。目の不自由な人になったときは、かいだんをのぼる時よりくだる時のほうがこわかったです。だんさは先に行ってしまうと、急にさがってちょっとこわかったです。ガイドヘルプの人は、これをいつもしていると思うと、ガイドヘルプの人はすごいと思いました。

<4年児童の感想>目が全く見えない人は、いつもこわい思いで生活をしていて、段差や止まるところなど色々なきょうふが待ちかまえているので、こわいと思いました。目の不自由な人の役、誘導する人の役に分かれて、命は誘導する人にかかっている、誘導する人は目の不自由な人をサポートするので、誘導するときは気をつけていこうと思います。

6年生 福井の魅力を伝え合う 6月19日(金)

4月27日(月)に引き続き、宝永地区の老舗『御素麺屋』の社長 ○○○○ 様と和菓子職人の方をお招きして、子どもたちは福井の魅力について調べてまとめたことを、ゲストティーチャーや学年の仲間に聴いてもらい、『ふくいのお宝 ○○○に变身』の『○○○』にあたる内容を検討していきました。

まず、一つ目の班は『歴史がつなげる福井の食の魅力』とキャッチコピーにまとめ、おろしそばや焼き鯖寿司等を紹介し、養浩館や丸岡城など古くからある史跡をパッケージに印刷したらどうだろう、と提案しました。その他に、『福井生まれの福井にしかない食べ物』とキャッチコピーにまとめ、金福すいかと羽二重餅を使ったおかしが作れないだろうか、と提案がありました。具体的には、羽二重サンドやジュレを考えていました。ゲストティーチャーから「ジュレは難しいが、ようかんならできそうです」と、助言をいただきました。また、『福井の水と共に生きる!』とキャッチコピーにまとめ、水がきれいなことや雪解け水を生かしたらどうだろうか、という発表と提案がありました。水まんじゅうや雪の結晶の形をイメージしていました。ゲストティーチャーから「どんなおかしでも水を必ず使っています」という話をいただきました。さらに、『受け継がれた技が生む驚きの伝統工芸品』とキャッチコピーにまとめ、越前打刃物と越前和紙を紹介し、プレートにQRコードを表示して魅力の説明がされているサイトにつながるようにします、と提案したグループもありました。

子どもたちは各グループの発表を聞き終えると、自分たちのグループが福井の魅力について調べてまとめたことをもう一度吟味をしたり、他のグループ発表で共感できる内容について検討したり、グループ内で意見交流を行いました。その間、お二人のゲストティーチャーが各グループ内を巡回し、子どもたちのアイディアに助言をしていただきました。その後、学年全体での意見交流が行われ、『○○○』は『おかし』にしようと合意形成されました。そして、次の時間以降で、子どもたちがどのようなお菓子を作るのか アイディアを出し合い、試作品づくりでお二人のゲストティーチャーの力をお借りすることが決まりました。試作品の完成が待ち遠しいです。



＜各グループで再検討する＞

4年生 心のバリアフリー教室を開催する 6月23日(火)

『心のバリアフリー教室』の前半は、福井市障がい福祉課の方に協力をいただき、福井市聴力障害者協会 ○○○○ 様をお招きして、お話を伺いました。聴覚障害者の方は、見た目ではなかなか分からないので、生活をする上で大変なことが多いそうです。お話の途中には、日常で使える手話や教科を表す手話も教えていただきました。

『心のバリアフリー教室』の後半は、福井県卓球バレー協会の方々をお招きして、トレーニングルームで卓球バレーを体験しました。子どもたちは1グループ6人に分かれて、2チームで卓球台を囲み、対戦しました。卓球バレーは、いすに座って、音が鳴る卓球の球を板で打ち合います。球はネットの下を通し、3回以内で相手のチームに返します。立ってしまったり、球が台から落ちてしまったり、3回以内で返せなかったら、相手のポイントになります。卓球バレーは、足が不自由な人も、目が不自由な人も、耳が不自由な人も、子どもから大人まで誰もがができるスポーツです。子どもたちも大いに盛り上がり、楽しみました。



＜卓球バレーをチームで楽しむ＞

<4年児童の感想>わたしは、今日、ちょうかくしょうがい者の人のお話や手話体験をして、ちょうかくしょうがい者は見た目であまりわからないということが分かりました。手話は、むずかしいということも分かりました。わたしはたつきゅうバレーをして、だれもが楽しめるスポーツがあって、とてもいいと思いました。